短編集２

愛・武者修行Lv１

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
短編集２

【Ｎコード】
Ｎ５１５７ＢＡ

【作者名】
愛・武者修行Ｌｖ１

【あらすじ】
いろいろな作品を集めた短編集２です。

私はトンネルを掘る仕事をしている。
先日、私の仕事場に助っ人がやって来た。
助っ人は外国出身で、とても力が強く、頼りになった。
気分転換の為に地上へ出てみた。しばらくぶりの地上だ。

「なんだ、こんな所に蟻がいるぞ、しかも外国の蟻まで」
「やだー、浩次。気持ち悪い、早く殺してよ」

プチッ

／気分転換

私は雪子、中学一年生。
今、道を歩いていたら、ナンパされたの。いや、難破したの船が。
どこを歩いているかって？　決まっているでしょ船の甲板よ！
あ、誰か来たようね。これで失礼するわ。

／ナンパ

私はアレを飼っている。
アレはとても獰猛な奴ですぐに私を攻撃してくる。
手放そうにも手放すことができない。
どこに行ったってくっ付いてくるし……。
「はあっ、この虫歯菌なんとかならないかな」

／虫歯菌

ここは無人島。
私の名前は春風　ウララ。女で１５歳です、以後お見知りおきを。
無人島なのでここにはもちろん誰もいないし、物も何も無い。幸いなことに食料だけは豊富なの。
もう、ここに来て一ヶ月になるわ。
お風呂にも入ってないのよ。ああ、体を洗いたい。体を洗って以前のようなツルツルピカピカのバディーを手に入れたいわ。
閃いた！　食べ物で体を洗えばいいじゃない。私って、頭良くない？
私は腐ったバナナやら納豆やらお魚やらで体を洗った。
臭いわ！
夢から目が覚めた。
夢オチじゃない！

／夢

「空男、愛してるって１００回言って」
「愛してる、愛してる、愛してる×１００」
「言ったよ、海子。僕はこんなに君を愛しているんだ。君は僕のことどう思ってる？」
「普通」
「じゃあ、なんで言わせた！」

／愛してる

「指をさすな」何度も言っているのに彼はいうことを聞かない。
でも、住んでいる世界が違うのだからしょうがないのかもしれない。
彼は人間で、私は障子なのだから。
私の体は彼の指に刺され穴だらけだ。

／ささないで

「血だ、血が流れている。なぜだ。痛い、痛いよう」
目の前の景色が徐々に霞んでいく。
「内臓だ、内臓が見える。誰か助けてくれー」
ガクッ

あらあら、ケンゾウったらお魚さばいたぐらいで気を失っちゃって。

／初めてのお魚さばき

私の体の変な場所に毛が生えていた。前は無かったのに。
抜いてみることにした。ブチッ。
「フフフ、よくぞ私の正体を見破ったな」
「誰だ、お前は」
「私は、１０万光年先の宇宙からやって来た毛星人だ」
「なんで、地球にやって来た」
「それは、地球人の毛とわれわれがそっくりだからだ」
「お前の他にも毛星人はいるのか」
「地球人の変な所に生えている毛はほとんどがわれわれ毛星人だ」
「目的は何だ」
「地球人にとり付いて地球人の栄養を奪うためだ」
「なんだと、そんなことさせるか」
私は、すぐに毛星人を燃やした。
毛星人は今も地球で、誰かの体に潜み続けている。

／異変

本を読んでいたら、本の中に吸い込まれた。
「どのページを開いている途中だったんだっけ」私は見慣れぬ景色に少し戸惑った。
「暗い、暗いよ。誰か出してくれ」
その時、一匹のメガロドンとすれ違った。
私は、それを見て思い出した。深海魚のページを見ている最中だったことを。
私は本の中の深海魚として本が消えるまで生き続けるのだろうか。

／本の中

キラキラした流れ星に乗ってみたいな。
雲の上に乗って昼ご飯が食べたいな。
お金持ちになりたいな。
宇宙人とコンタクトをとりたいな。
頭が良くなりたいな。
海の中で呼吸ができるようになりたいな。
土の中をモグラのように潜ってみたいな。
チーターのように足が速くなりたいな。
鳥のように背中に羽が生えて自由に空を飛びたいな。
犯罪が、この世界からなくなればいいな。
私が生き返ればいいな。

／私は土の中の屍

私は主婦です。子供は女の子が二人います。子供は保育園に通っています。
「ほらー、もう保育園に行く時間だよ。あら、お姉ちゃん鼻血が出てるわ」
どうしましょう、お姉ちゃんだけ保育園、休ませるか。

「お姉ちゃん、鼻血が出たから保育園、休ませるね。あなたはちゃんと保育園行くのよ」
「私も、鼻水出たから保育園、休む」
私「……」

／休む

私は山で遭難した。これで三日目だ。早く何か食べないと、死んでしまう。
私は世間ではちょっとした有名人だ。私は再生能力がある再生人間なのだ。
手を切ったら、すぐに手が生えてくる。目を取ったら目が出てくる。
ぬ！　そうだ、その手があったか。
私は持っていたナイフで自分の目や内臓を取り出して生で食べた。
「俺の、目や内臓うめぇ。明日はステーキだな」
これで、死ぬことはなさそうだ。

／自給自足

不気味な人が電柱の陰で笑っていた。
あ、あれはもしや伝説の妖怪。とり付かれると死ぬまで離れないらしい。
目が合うと、妖怪は近づいてきた。私は必死で逃げた。
妖怪はどこまでも付いてきた。もう終わりだ。私はとり付かれた。
「なんか、妖怪？　なんか妖怪？」
妖怪の名前［なんか妖怪？］
なんか妖怪うぜー。

／近づく恐怖

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n5157ba/

短編集２

2012年1月14日10時47分発行